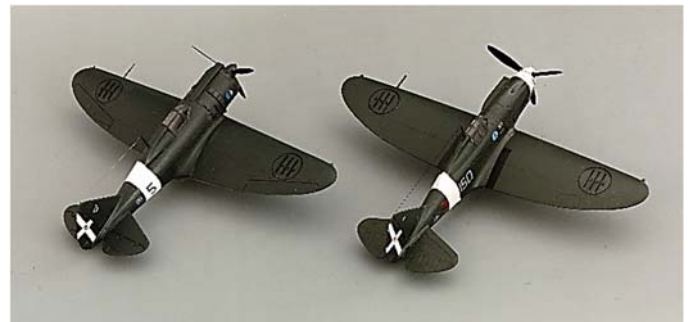


ワケ カタチには理由がある(74)

Shape follows Function & Taste

～レジャーネ Re2001



[前作 Re2000 と。機首形状と胴体の太さ以外は大きく変わっていないことがわかります。→]

1940年に初飛行したイタリア空軍の機体で、レジャーネ社の前作 Re2000 をベースにエンジンを空冷のピアッジョ P. XI エンジンから同盟国ドイツから提供された液冷のダイムラーDB601 に換装しています。前方からの面を見てもらえばわかりますが、このエンジンの換装により胴体横幅は薄くなり、尖った機首も前作から大きくイメージを変えることに寄与しています。ただ、再設計箇所は最低限に抑えたようで、胴体の高さは変わっておらず、同時代のメッサーシュミット Bf109 や飛燕と比べると、マンガのようにデフォルトした機体のようにも見えます。性能も高性能エンジンに換装した割には劇的に向上したというわけではなかったようで、続けるの Re2005 の開発が促されることとなりました。-4 (セリエ 4) では胴体下面に爆弾を装着できるようになり、戦闘爆撃機としても使用されました。

【模型について】

チェコのスWORD(Sword)の1/72のインジェクションキットです。とても綺麗なモールドで普通に組めば、労せずして綺麗な完成品となります。爆弾はネオジム磁石で着脱自在としています。

(中川裕幸 2022年10月)